

平成28年度

# 事業概要

(平成27年度実績)

山梨県立こころの発達総合支援センター

## はじめに

こころの発達総合支援センターは、山梨県内に居住するすべての人々、とりわけ子どもに対して、発達権を保障し推進することを中核的理念として設立された機関です。

子どもは生まれながらにして多様であり、その育つ方向もまた互いに異なっています。子どもの発達とはこの、生まれながらに定まっている育ちの道筋のことであり、発達権の保障とはこの、自身の発達の道筋を過たずに進み十分に能力を開花させられるよう、周囲のおとなが必要なものを準備するということです。このように書くと何やら難しそうですが、「子どもに合わせた」養育・教育が大切だという、言い古されたかのように思えることが発達権という言葉の意味なのです。

とはいえ現実には、「子どもに合わせた」養育・教育は簡単なことではありません。発達の道筋を正確に予測するのは、育児情報を入手しやすい平均的な育ちをする子どもの場合であってさえ容易なことではありません。ましてや平均とは異なる育ちをする子どもの場合には、その困難度合いは跳ね上がります。たとえ「子どものために」という気持ちがいくらあっても、周囲のおとなは暗中模索・五里霧中の沼へと絡め取られてしまうわけです。

我々のような発達支援の専門家が必要とされる理由が、まさにここにあるのです。我々のセンターは、来所するあらゆる子どもの発達の道筋を正確に把握し、どのような育て方・教え方が望ましいかについて解答を提供することができます。実に幸いなことに、我々のセンターにおけるこのような実践は、関係機関の皆様からも、一般県民の皆様からも、強い支持を頂くことができました。けれどもその一方で、我々のセンターが擁する乏しいマンパワーでは到底、県内すべての子どもの発達ニーズに応えることなどできず、膨れ上がった期待は長い外部・内部待機問題を引き起こしています。

このような葛藤を背景として、我々のセンターは直接支援から間接支援へと運営の射程を拡大させてきました。この文脈での、平成27年度における我々の新たな試みの一つとして、「山梨県子どもの発達を考える医療連携会議」の発足があります。これは山梨県内に勤務する小児科医の先生方と我々のセンターとの間で、円滑かつ効率的に連携を進めるためのシステム作りを検討することを狙いとした会議です。発足にあたっては、山梨県小児科医会会長の今井秀人先生、山梨大学大学院総合研究部の相原正男先生に、全面的なご支援を頂きました。またご多忙の中、検討委員を引き受けてくださった小児科医の先生方からは、会議の内外を問わず数え切れないほど多くの建設的なアイデアを賜りました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

こうした取り組みの成果の一つが、幼児期・学齢前期の発達診療におけるノウハウを広く網羅した『子どもの精神発達に関する診療マニュアル』の作成であり、検討委員の先生方に限らず、県内の小児科医の先生方にも配布させて頂きました。こうした検討会

議や診療マニュアルの発行が、従来我々のセンターが弱点としていた、医療機関への普及啓発に向けた一歩としたいと願っております。無論のこと、理想の実現にはまだまだ長い道程があることは承知しておりますが、非力ながら我々も、こどもの発達権が保障され、周囲のおとなが抱く養育・教育をめぐる悩みが解決できるような、よりよい社会を願って努力を今後とも惜しまないつもりでいます。

平成 28 年 6 月

山梨県立こころの発達総合支援センター所長 片山知哉

# も く じ

はじめに	1
<b>第1部</b> <b>こころの発達総合支援センター概要</b>	
1 沿革	4
2 施設	5
3 組織図・職員構成	7
4 業務内容	8
5 相談・診療の流れ	8
<b>第2部</b> <b>業務の実施状況</b>	
<b>相談支援</b>	10
1 相談支援体制、2 相談件数	
<b>診　療</b>	13
1 診療体制、2 診療状況、	
3 発達障害医療支援体制整備事業、4 ショートケア	
<b>地域支援</b>	18
1 市町村療育支援開発事業	
(1) 幼児集団療育、(2) 学齢期療育	
(3) 成人グループ、(4) ペアレントサポートプログラム	
2 技術支援	22
(1) 関係者コンサルテーション、(2) 市町村療育支援、	
(3) 発達障害者支援センター連絡協議会、(4) 関係機関との連絡調整会議の開催	
(5) 会議等への参加	
<b>研修・普及</b>	26
1 人材育成	
(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業、(2) 発達障害研修事業、	
(3) 講師派遣、(4) 視察研修受け入れ	
2 発達障害者支援開発モデル事業	29
(1) 思春期将来展望形成促進事業、(2) 発達障害者サポーター養成・派遣事業、	
(3) 発達障害者支援コンサルタント養成・派遣事業	
① コンサルタント養成、② コンサルタント派遣	
3 調査研究	32
4 広報・普及	33
(1) パンフレット等印刷物の発行、(2) 広報視聴覚機材の提供・貸出	

## 第1部 こころの発達総合支援センター概要

### 1 沿革

発達障害者支援法第14条及び第19条に基づき、山梨県立こころの発達総合支援センター設置及び管理相談支援条例及び同施行規則により設置された。

平成17年 4月1日 児童福祉施設や学校等において、被虐待児、発達障害児などによる処遇困難事例が増加する中、発達障害の診断、支援を行なうことができる専門機関の設置を県に義務づけるために発達障害者支援法が施行された。

平成18年 4月1日 山梨県においては、中央児童相談所内に子どもメンタルクリニックが開設されると同時に、障害者相談所内に発達障害者支援センターが設置された。

平成22年1月～8月 子どもの心の問題・医療等の相談の拡充に伴い、クリニックの機能強化が望まれる中、幼児期から成人期に至るまでの相談、診断等を総合的かつ一体的に支援できる体制整備が求められた。これを受け、子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターの再編に向け、庁内検討会・ワーキンググループが設置され、平成23年度「子どもメンタルケアセンター（仮称）」開所に向け検討された。

平成22年8月～12月 山梨県福祉プラザ改修工事とプラザからの団体移転。

平成23年1月～3月 センター開所準備。

平成23年 4月 1日 児童相談所子どもメンタルクリニックと障害者相談所発達障害者支援センターが統合され、山梨県立こころの発達総合支援センターとして開所。

## 2 施設

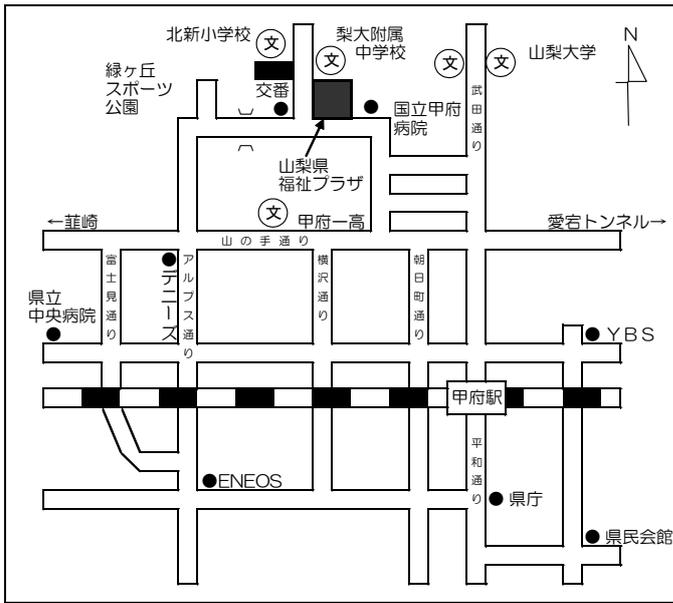
- 場所

山梨県甲府市北新一丁目 2-12（山梨県福祉プラザ内）

- 建物

鉄筋コンクリート造 4階建（山梨県福祉プラザ）の2階・3階・4階一部

- 案内図



《電車》

甲府駅下車 北口から徒歩 20 分

《バス》

甲府駅北口から

【14】 HANAZONO ホスピタル行き

【15】 上帯那行き

【16】 塚原行き

山梨県福祉プラザ前下車

（所要時間 約 6 分）

《車》

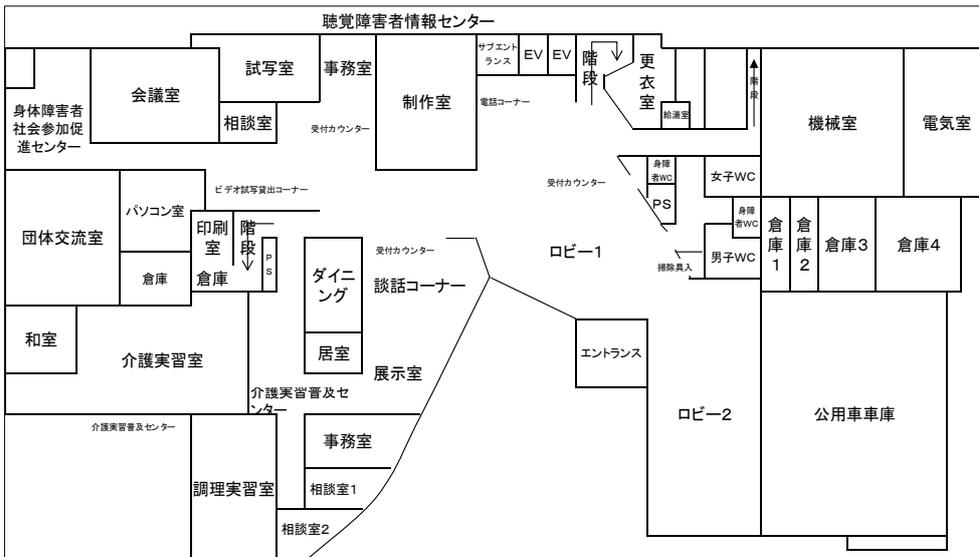
甲府昭和インター利用の場合

アルプス通りを北進

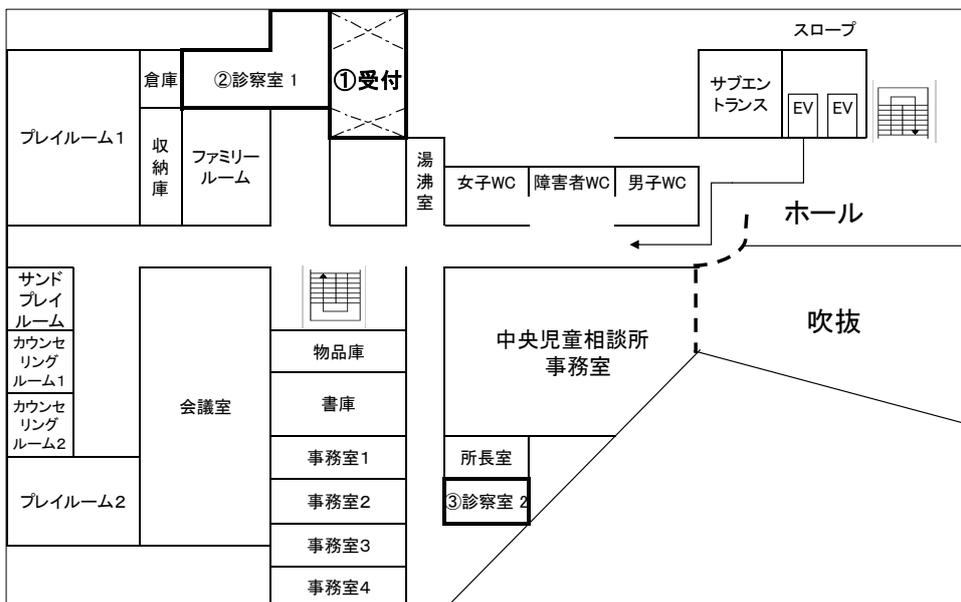
（所要時間約 10 分）

- 平面図

【1階】

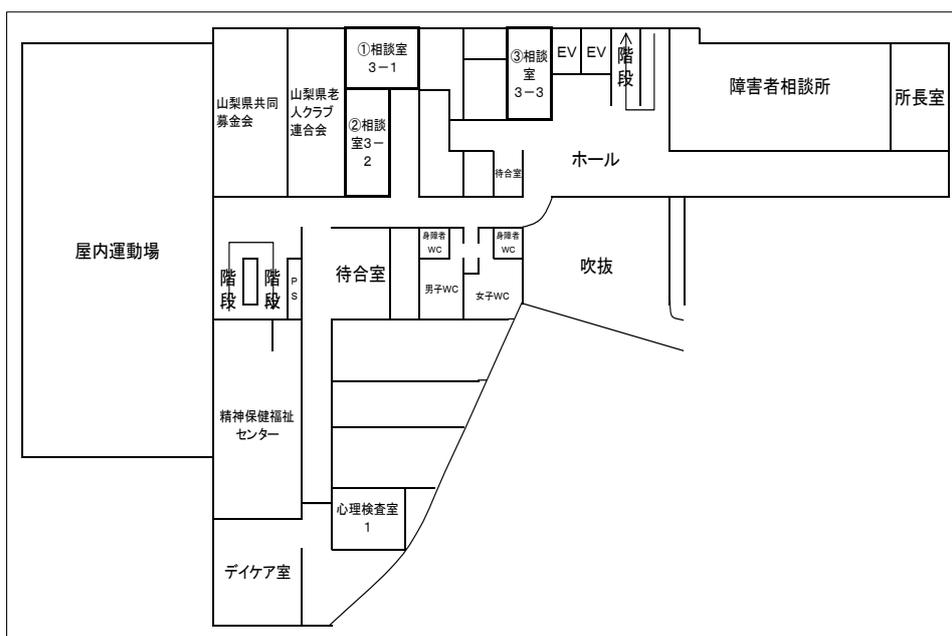


【2階】



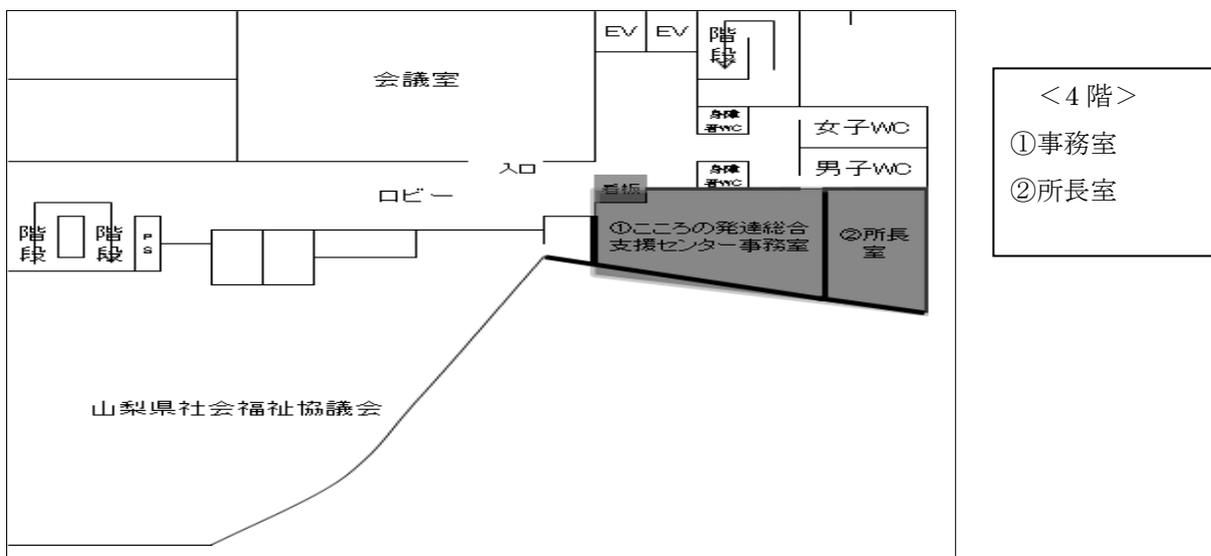
- < 2階 >
- ①受付
  - ②診察室 1
  - ③診察室 2

【3階】

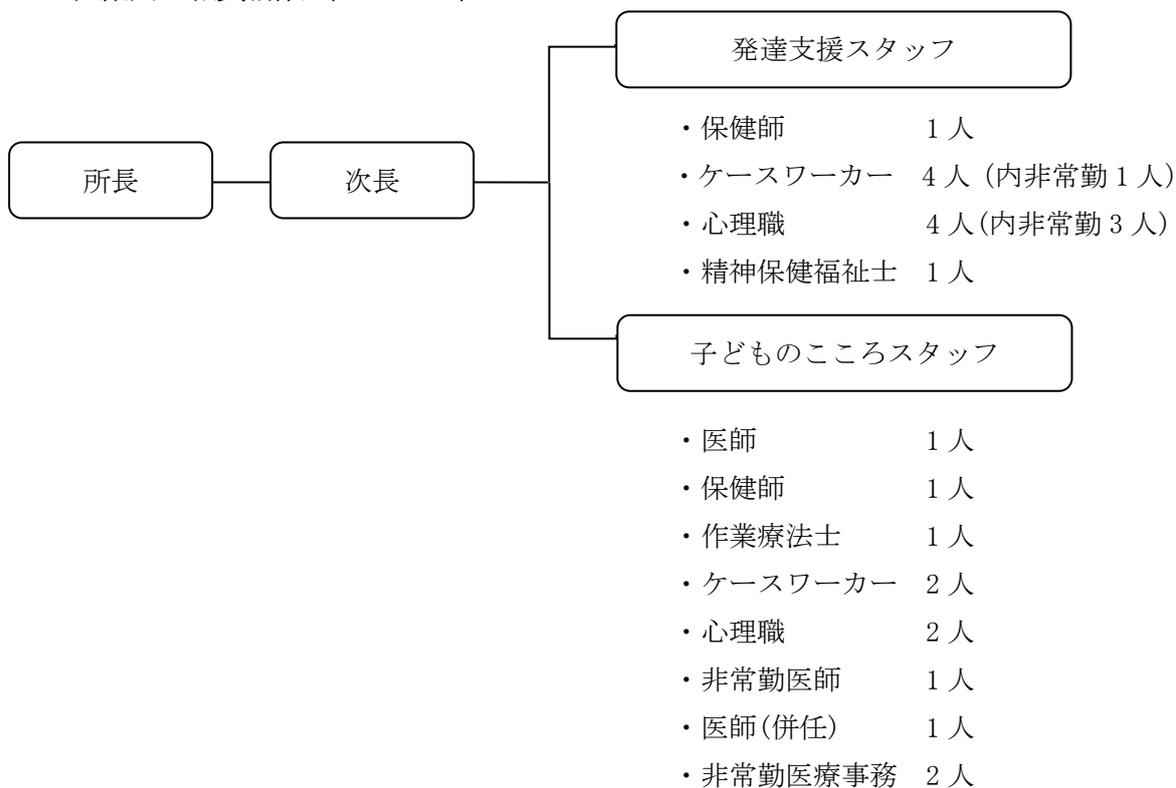


- < 3階 >
- ①相談室 3-1
  - ②相談室 3-2
  - ③相談室 3-3

【4階】



3 組織図・職員構成 (H28.3.31)



## 4 業務内容

### 相談支援

発達障害や子どものこころの問題について、日常生活等に関するさまざまな相談を行う。

- 相談
- 発達支援
- 就労支援

### 診療

発達障害や子どものこころの問題について、精神科医師による診療を行う。

- 診断
- 治療
- ショートケア

### 地域支援

本人や家族がよりよい地域生活を送れるよう、県内の関係機関と連携を図る。

- 市町村療育支援開発事業
- 技術支援

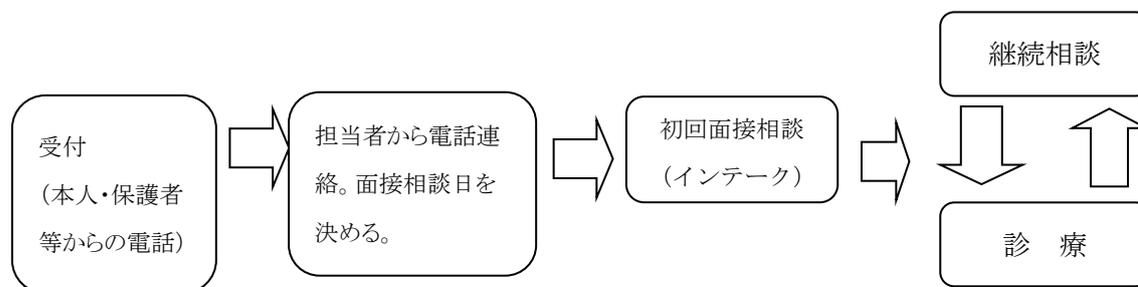
### 研修・普及

発達障害や児童期・思春期のこころの問題に関するさまざまな研修や調査研究を行う。

- 人材育成
- 発達障害者支援開発事業
- 調査研究
- 広報・普及

## 5 相談・診療の流れ

本人または保護者等から電話にて受け付ける。その後、担当者から電話をし、相談日を決める。来所による初回面接相談をし、その後は継続相談や診療に繋げる。



- 対象  
18歳未満の子どものこころと発達に関する相談全般と成人の発達障害に関する相談を受け付けている。
- 受付方法  
相談・診療は完全予約制。本人または保護者等からの電話で受け付けている。
- 相談場所
  - ・福祉プラザ内（月～金）
  - ・都留児童相談所内（水、金、第2・第4木）
  - ・富士ふれあいセンター内（第1・第3火）
- 診察場所
  - ・（福祉プラザ内）こころの発達総合支援センター甲府クリニック
  - ・（都留児童相談所内）こころの発達総合支援センター都留クリニック
- 費用  
相談は無料。診療・ショートケアは保険診療となる。

## 第2部 業務の実施状況

### 相談支援

#### 1 相談支援体制

こころの問題を抱えた児童とその家族や発達障害児（者）とその家族に対して、相談支援、発達支援、就労支援及び情報提供を行った。また、支援関係者に対して助言やコンサルテーションをととした支援を行った。

相談は予約制とし、福祉プラザ内、都留児童相談所内、富士ふれあいセンター内で実施した。

#### 2 相談件数

平成27年度の相談件数は3,861件で、このうち新規面接相談は、310件であった。

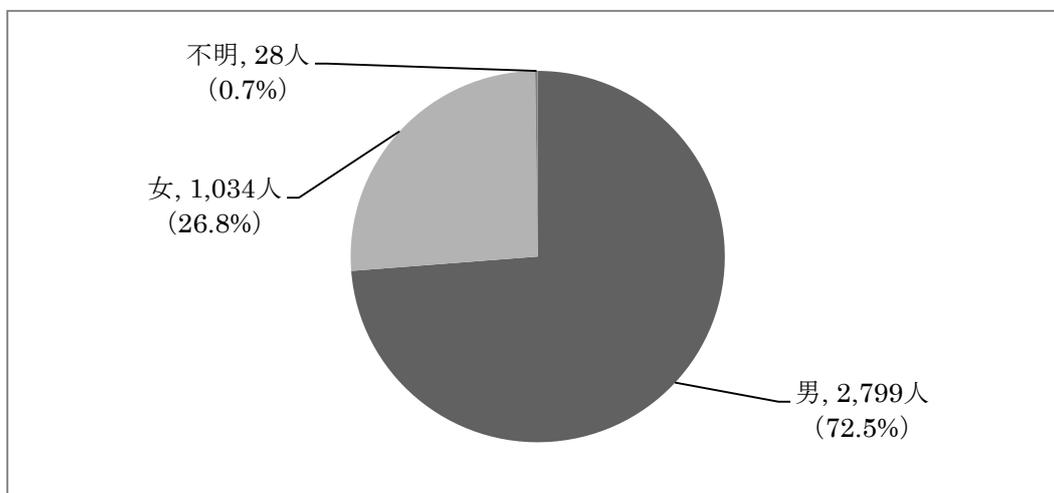
##### ① 相談者数

電話	来所			訪問	関係者コンサルテーション	合計
	甲府	都留	ふれあい			
879	2,293	170	240	68	211	3,861

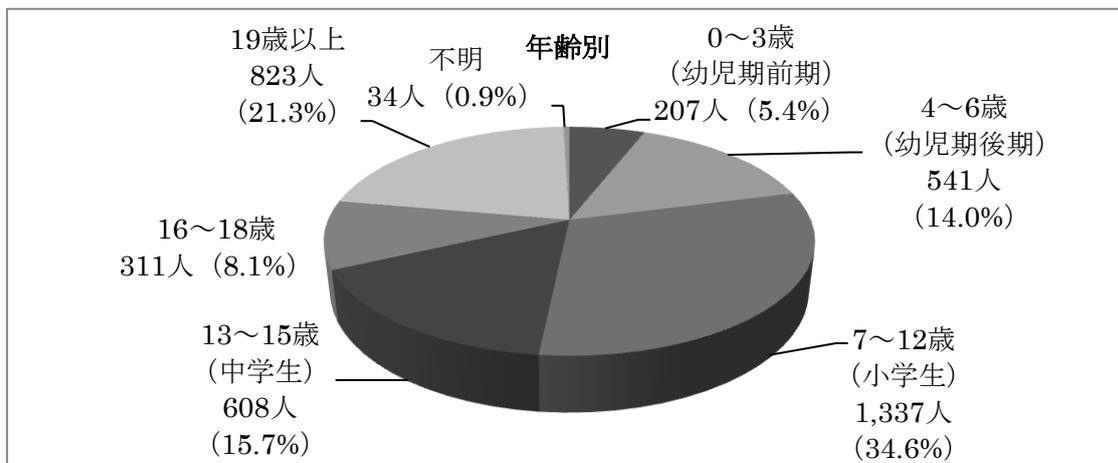
##### ② ケース別

発達障害ケース	子どものこころケース*	
3,556	305	*発達障害や発達の問題に関わる相談以外のケース (発達以外の相談であっても発達障害、あるいは発達の問題があるケースはここには含まない)

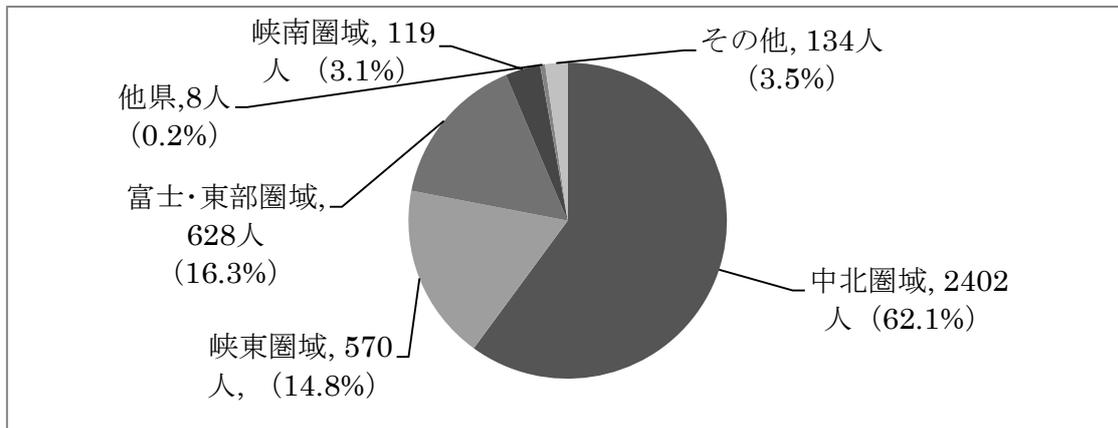
##### ③ 男女別



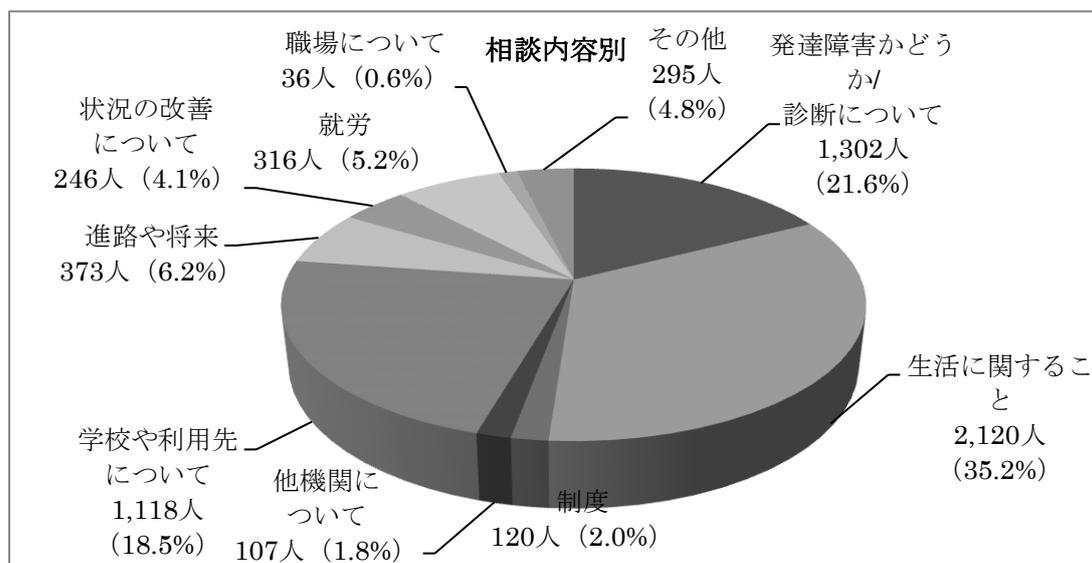
④ 年齢別



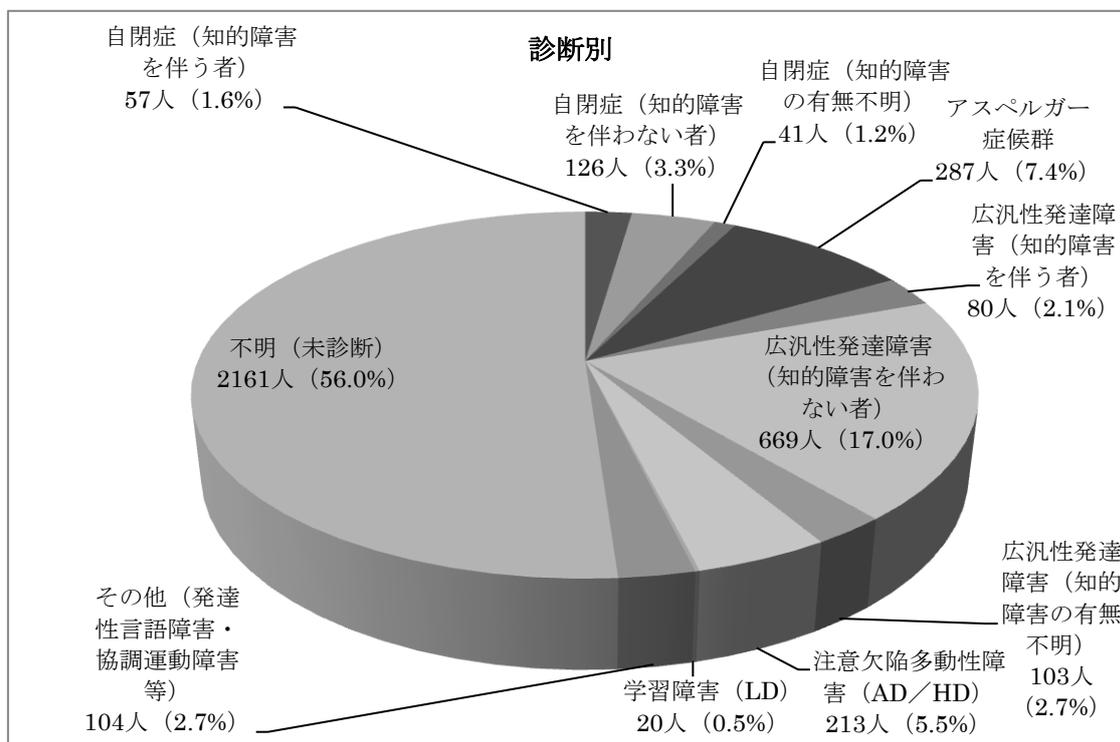
⑤ 圏域別



⑥ 相談内容別



⑦ 診断別

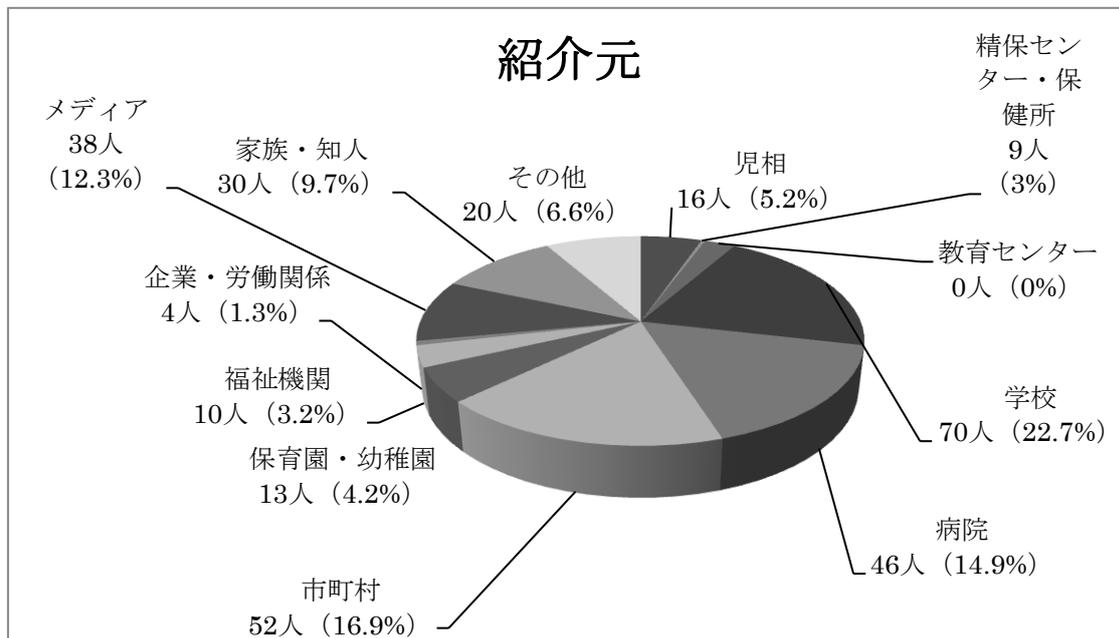


\*統計処理にあたって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害＞注意欠如多動性障害＞精神遅滞＞統合失調症・気分障害＞適応障害・摂食障害である。当所での診察以外による診断名については、本人または家族による申告による。

⑧ 新規面接相談の内訳

		合計	ケース別		年齢別					
			発達障害 ケース	子どもの こころ ケース	0～3歳	4～6歳	小学生	中学生	16～ 18歳	19歳 以上
H27年度	甲府	256	213	43	25	49	100	37	11	34
	都留	26	21	5	4	1	12	8	0	1
	ふれあい	28	24	4	4	6	7	3	0	8
	合計	310	258	52	33	56	119	48	11	43
前年度		314	295	19	35	50	120	47	15	47

## ⑨ 新規面接相談の紹介元



## 診療

### 1 診療体制

平成 18 年度から平成 22 年度まで各児童相談所で運営していた子どもメンタルクリニックの機能を引き継ぎつつ、相談部門との連携強化を図ることにより、発達障害の専門医療機関及び子どものこころの診療拠点医療機関として、より質の高い医療の提供を目指し、県内 2 ヶ所（甲府、都留）で精神科クリニックを開設。予約制で診療を行うとともに、H24.1 月からは甲府クリニックでショートケアを実施した。

また、県内の診療対応力の向上と受け皿の充実を図ることを目的として、発達障害及び子どものこころの診療に携わる他の医療機関との連携・情報交換、研修生の受け入れを行っている。

【甲府クリニック】場 所 福祉プラザ 2 階  
管理者 金重 紅美子  
診療時間 午前 9 時 30 分から午後 12 時 30 分

(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)

担当医	月	火	水	木	金
片山知哉		○		○ (第 2・4)	
金重紅美子	○			○ (第 1・3)	○ (第 2・4)
小石誠二				○	
下山 仁	○				
上村拓治			○ (第 2・4)		
江間彩子		○ (第 1・3)			

【都留クリニック】場 所 都留児童相談所 2 階

管理者 片山 知哉

診療時間 午前 9 時 30 分から午後 12 時 30 分

	月	火	水	木	金
片山知哉				処方のみ (第 2・4)	○
金重紅美子			○		

## 2 診療の状況

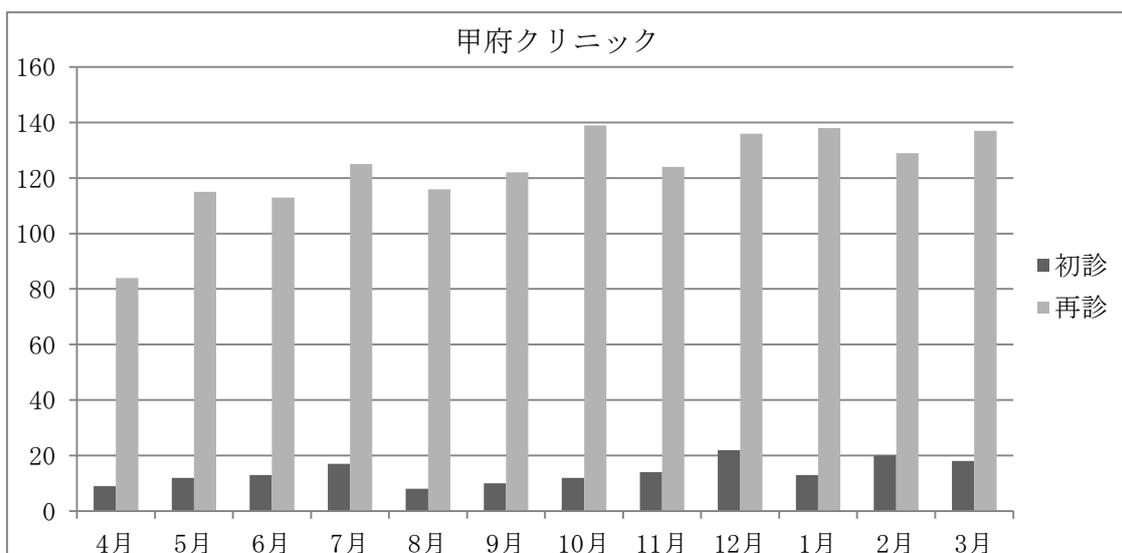
### ●受診者総数推移 (H23～H27)

年度	H23	H24	H25	H26	H27
初診	278	296	302	218	214
再診	1, 120	1, 469	1, 655	1, 712	1, 878
ショートケア	10	43	28	22	13

●受診者と診療形態（H27年度）

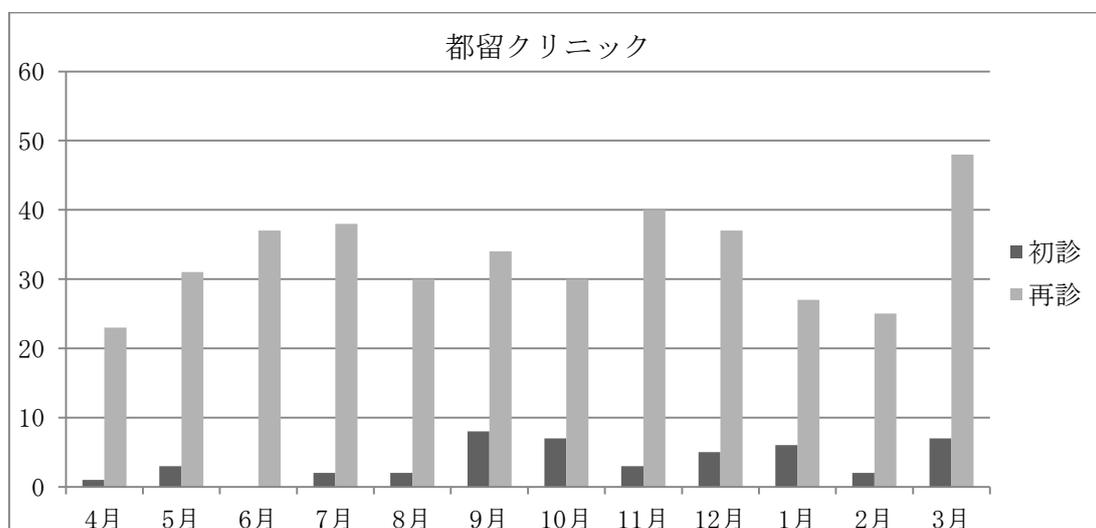
【甲府クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診	9	12	13	17	8	10	12	14	22	13	20	18
再診	84	115	113	125	116	122	139	124	136	138	129	137



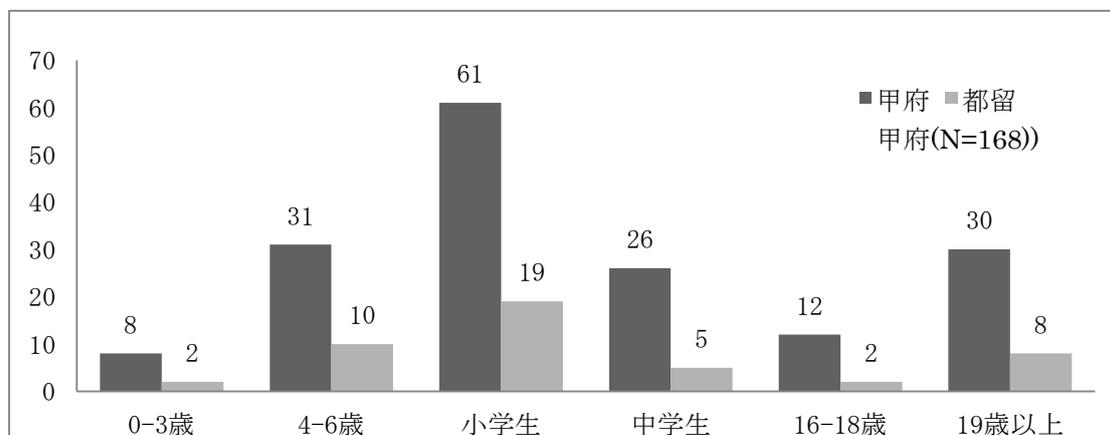
【都留クリニック】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診	1	3	0	2	2	8	7	3	5	6	2	7
再診	23	31	37	38	30	34	30	40	37	27	25	48



●H27 年度初診者の状況

甲府・都留クリニック 年齢帯別内訳



診断分類別割合

診断名		甲府		都留		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
心理的発達の障害 (F8)	広汎性発達障害 (F84)	99	59.0%	26	56.6%	125	58.4%
	学習障害 (F81)	6	3.6%	1	2.2%	7	3.3%
	その他	1	0.6%	0	0%	1	0.5%
小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 (F9)	注意欠如多動性障害 (F90)	7	4.1%	0	0%	7	3.3%
	その他	18	10.7%	2	4.3%	20	9.4%
精神遅滞 (F7)		4	2.4%	1	2.2%	5	2.3%
神経症性障害 (F4)		15	8.9%	3	6.5%	18	8.4%
統合失調症圏 (F2)		3	1.8%	2	4.3%	5	2.3%
気分障害 (F3)		2	1.2%	0	0%	2	0.9%
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5)		0	0%	0	0%	0	0%
診断保留		12	7.1%	9	19.6%	21	9.8%
その他		1	0.6%	2	4.3%	3	1.4%
合計		168	100%	46	100%	214	100%

\*統計処理にあたって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害＞注意欠如多動性障害＞精神遅滞＞統合失調症・気分障害＞適応障害・摂食障害である。

### 3 発達障害医療支援体制整備事業

発達障害の早期把握・早期支援を推進するために、発達障害のあるこどもが地域で安心して医療を受けることができるよう、こころの発達総合支援センターを中心とした医療ネットワークの構築と地域の小児科医を対象とした人材育成を行う。

#### 1) 事業期間

平成 27 年度～29 年度(3 カ年)

#### 2) 事業内容

##### (1) 検討委員会(名称：山梨県こどもの発達を考える医療連携会議)の開催

ア 年間 3 回開催

イ 内容

- ・ 診療における現状・課題の整理及び共有
- ・ 症例検討を通じた小児科医の人材育成
- ・ 診療マニュアルの作成
- ・ 医療連携パスの開発及び医療ネットワーク構築の検討

ウ 検討委員構成

(ア) 検討委員 山梨県内小児科医 20 名

(イ) 事務局 こころの発達総合支援センター

##### (2) 研修会の開催

ア 年間 1 回開催

イ 対象 山梨県内の小児科医

<実績>

	日時	内容
検討委員会	平成 27 年 7 月 22 日(水)	事業説明、方向性・内容に関する意見交換
	平成 27 年 9 月 2 日(水)	講義・症例検討・意見交換
	平成 27 年 12 月 9 日(水)	講義・症例検討・意見交換
研修会	平成 28 年 1 月 20 日(水)	講演テーマ「発達障害の診療しかた」
		講師：東京都立小児総合医療センター 顧問 市川宏伸先生
診療マニュアルの作成・発行(H28 年 3 月)		
県内小児科医を対象に「こどもの精神発達に関する診療マニュアル」を作成・配布した。		

#### 4 ショートケア

こころの問題や発達特性などをもち、不登校等社会に適応しにくい状況をきたす対象者に対して、心身の健康維持を図ること、社会生活を営む上で必要な生活技能や適応能力の獲得と向上を図ることを目的として行った。

##### 1) 対 象

当センター甲府クリニックに通院中で、かつ、医師が必要と認めた者。

##### 2) ねらい

長期的な治療プログラムとして位置づけ、安心して参加できる社会的な場を広げることとそのきっかけづくり

##### 3) 内 容

本人向けプログラムと家族講座の実施

- 身体プログラム

呼吸法、ストレッチ、ヨガ ほか

- ソーシャルプログラム

創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキル ほか

- 家族講座

テーマ：体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、  
将来に向けて（情報収集のしかた、本人との相談の進め方）

<実 績>

月 1 回 月曜日 13:00～16:00	実施期間	実施回数	実参加者数	延参加者数
	H27.6月～H28.2月	7	3	13

### 地域支援

#### 1 市町村療育支援開発事業

年齢や障害特性に応じた支援プログラムを開発し、幼児期から成人期までの支援を行った。

##### 1) 幼児集団療育

子どもが楽しい集団活動を体験するとともに、保護者が子どもの発達特徴を理解し子どもに合った対応方法を知ることがを目的に、幼児集団療育を実施した。併せて、支援プログラムを開発し、市町村保健師や保育士・幼稚園教諭等の職員の見学を受け入れ、研修の場としても提供した。

● **ころころグループ**

- (1) 対 象：当センターに來所している幼児とその保護者で、集団活動に参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを了解できる保護者。
- (2) ねらい：発達特性への気づき及び子育て支援と市町村モデルのプログラム開発
- (3) 内 容：親子参加型療育と親ミーティング
- (4) 回 数：1コース7回 年3コース

<実 績>

	実施期間	実施回数	実参加者数(親子数)	延参加者数(延親子数)
1クール	H27. 5/8～6/26	7	5	32
2クール	H27. 8/28～10/23	7	3	20
3クール	H28. 1/8～ 2/26	7	4	20

● **ぴよんぴよんグループ**

- (1) 対 象：ころころグループに参加した幼児とその保護者で、引き続き参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを了解できる保護者。
- (2) ねらい：発達の支援と保護者及び保育所幼稚園支援  
関係機関職員の人材育成
- (3) 内 容：療育と親ミーティングの実施
- (4) 回 数：1コース6回程度 年3コース  
(3コース目のみ、グループ参加後に参加評価等振返りを実施)

<実 績>

	実施期間	実施回数	実参加者数(親子数)	延参加者数(延親子数)
1クール	H27. 5/20～ 7/1	6	3	18
2クール	H27. 9/16～10/28	6	6	27
3クール	H28. 1/13～ 3/2	7	6	34

● **わくわくグループ**

- (1) 対 象：ころころグループに参加したことのある年長児とその保護者または昨年度わくわくグループに参加した現在小学校1年生の子どもとその保護者。
- (2) ねらい：就学・就学後の支援。
- (3) 内 容：  
交流イベントの開催：子どもとその保護者との交流会  
短期療育グループ：療育と親ミーティング
- (4) 回 数 短期療育グループ 1コース5回

<実 績>

	実施期間	実施回数	実参加者数（親子数）	延参加者数（延親子数）
交流会	H27. 8/5	1	20	20
1クール	H27. 11/11～12/9	5	8	28

● 幼児集団療育への見学受け入れ

- (1) 対 象：関係機関職員
- (2) ねらい：技術支援
- (3) 内 容：療育グループの見学参加

<実 績>

人数	主な見学者
6	市町村保健師、幼稚園教諭

2) 学齢期集団療育

本人たちの特性を生かした活動を通して充実感や自己肯定感を高め、他者との交流に関心を持つことを目的として実施した。

また、子どもグループと並行して親グループのプログラムを実施し、日頃の子育ての悩みや困りごと等について語り合う場を設定した。

●のびのびグループ

- (1) 対 象：小学生（1年～3年）とその保護者
- (2) ねらい：発達特性の評価と保護者の気づきへの支援
- (3) 内 容：
  - 子どもグループ：グループワークとアクティビティ
  - 親グループ：グループワークとレクチャー

<実 績>

実施期間	実施回数	実参加者数	延参加者数
H27. 6/1、6/15、6/29、7/13	4	3	11

●さんさんサークル

- (1) 対 象：小学生(4年～6年)とその保護者
- (2) ねらい：同属集団の中で安心できる居場所の提供
- (3) 内 容：
  - 子どもグループ：グループワークとアクティビティ

親グループ：グループワークとレクチャー

<実績>

実施期間	実施回数	実参加者数	延参加者数
H27. 6/22、9/28、H28. 1/25	3	2	6

\*親グループのみ実施

●友遊サークル

- (1) 対象：中学生とその保護者
- (2) ねらい：同属集団の中で楽しく過ごす経験と交流を目指す。また、次へのステップのガイダンス
- (3) 内容：  
 子どもグループ：机上での活動と身体活動  
 親グループ：グループワークとレクチャー

<実績>

実施期間	実施回数	実参加者数	延参加者数
H27. 12/21、H28. 2/22	2	3	6

\*親グループのみ実施

3) 成人グループ

- (1) 対象：個別相談を継続する中でグループワークへの参加が必要と認められる人
- (2) ねらい：参加者が楽しい、心地良いと思える場所や活動を提供し、安心できる対人関係の中で集団を体験しながら集団適応力を高めるとともに社会参加を促す。
- (3) 内容：《前半》会話をしながらのウォーミングアップ  
 《後半》カードゲームなどを用いてのアクティビティ

<実績>

第4月曜日 13:00～14:30	実施期間	実施回数	実参加者数	延べ参加者数
	H27. 4月～ H28. 3月	6	4	10

#### 4) ペアレントサポートプログラム

- (1) 対 象：子ども（小学校低～中学年）のこころの問題や発達障害等で養育上の悩みを抱える保護者及び市町村保健師等の職員で親支援に関わっている者。
- (2) ねらい：子どもへの理解を深め、自ら問題に対応できる具体的な育児方法を学ぶことにより、子どもとの心地よい関係をつくり、二次的な問題を予防することを目的とする。また、人材育成とペアレントサポートプログラムの開発・検討を行う場として、一部地域の関係職員への公開の研修も兼ねる。
- (3) 内 容：子どもの行動分類、問題解決スキル、ストレスマネジメントなどを含むペアワークを取り入れたグループワーク
- (4) 講 師：えじそんくらぶ 代表 高山恵子先生

実施日	内容	実参加者数	
		保護者	関係職員
平成 27 年 6 月 10 日	「子どもとの心地よい関係をつくるために」	8	3
平成 27 年 7 月 1 日	「コミュニケーションのコツと心が楽になる考え方」	9	3
平成 27 年 7 月 15 日	「第 1 回～第 2 回目のふりかえり」	7	
平成 27 年 9 月 2 日	「気持ちをつたえる伝え方・ふりかえりとセルフワーク」	9	4

## 2 技術支援

### 1) 関係者コンサルテーション

#### 1) 関係者コンサルテーション

医療、保健、福祉、教育、就労等の支援関係者への助言やコンサルテーション等をとおして地域の環境調整や技術支援を行った。平成 27 年度の関係者コンサルテーションの件数は 211 件である。関係機関の内訳は次のとおりである。

関係機関別									合計
保育所・幼稚園	小・中・高等学校	特別支援学校	専門学校・大学	福祉関係機関	入所・通所施設	就労関係機関	行政機関	企業	
5	93	11	0	14	18	55	3	12	211

※その他は、医療機関、団体等

## 2) 市町村療育支援

発達障害児の早期発見早期支援体制を構築するため、山梨市においてモデル的に健診や支援のあり方を検討した。

回数	開催日
第1回目	平成27年 5月29日
第2回目	平成27年 6月18日
第3回目	平成27年 9月17日
第4回目	平成27年11月27日
第5回目	平成28年 3月 3日

## 3) 発達障害者支援センター連絡協議会

地域の発達障害児(者)に対する総合的なサービスの提供を行うため、各関係機関(医療・保健・教育・福祉等)の取り組みや課題について共有し、効果的な連携等の在り方について協議した。

開催日	参加機関	協議事項
平成27年度 6月29日	51機関	①こころの発達総合支援センターの現状と課題及び平成27年度運営方針について こころの発達総合支援センター ②山梨県の就労支援の課題 県障害福祉課 ③情報提供・情報交換

## 4) 関係機関との連絡調整会議の開催

当センター主催の会議開催により情報交換や事例検討を行なった。

### (1) 総合教育センター特別支援教育部との連絡調整・支援検討会議

開催日	内容
平成27年 4月20日	所属概要について情報交換
平成27年 7月14日	教科学習に関する学習会
平成27年10月13日	教科学習に関する学習会
平成27年12月 8日	教科学習に関する学習会
平成28年 2月 9日	教科学習に関する学習会・事例検討

## (2) 就労支援関係機関との相談・支援定例会議

開催日	内容
平成 27 年 6 月 2 日	情報交換と連絡調整
平成 27 年 7 月 24 日	情報交換と連絡調整
平成 27 年 8 月 31 日	情報交換と連絡調整
平成 28 年 3 月 14 日	情報交換と連絡調整

## (3) 子どもの心の診療に関わる医療と福祉の連携会議

開催日	参加機関	内容
平成 27 年 12 月 18 日	7 機関	情報交換と連絡調整
平成 28 年 2 月 26 日	7 機関	情報交換と連絡調整

## 5) 会議等への参加

### (1) 教育関係

教育機関関係者との事例検討等を踏まえた連携会議は、年間を通じて随時行われ、それぞれの担当者が出席した。

### (2) 就労関係

就労支援ワーク実施に向け、実行委員会等の関係者会議に出席した。

開催日	会議名
平成 27 年 4 月 27 日	第 1 回就労支援ワーク運営委員会及び実行委員会
平成 27 年 5 月 28 日	第 2 回就労支援ワーク実行委員会
平成 27 年 6 月 25 日	第 3 回就労支援ワーク実行委員会
平成 27 年 7 月 16 日	第 4 回就労支援ワーク拡大実行委員会
平成 27 年 10 月 26 日	第 5 回就労支援ワーク実行委員会
平成 28 年 1 月 14 日	第 6 回就労支援ワーク実行委員会
平成 28 年 2 月 29 日	第 2 回就労支援ワーク運営委員会

### (3) 医療関係

医師による事例検討会やネットワーク会議に出席した。

開催日	会議名
平成 27 年 5 月 19 日	思春期入院症例カンファランス（北病院）
平成 27 年 7 月 28 日	思春期入院症例カンファランス（北病院）
平成 27 年 9 月 15 日	思春期入院症例カンファランス（北病院）
平成 27 年 11 月 24 日	思春期入院症例カンファランス（北病院）
平成 28 年 1 月 12 日	思春期入院症例カンファランス（北病院）
平成 28 年 1 月 29 日	「子どもの心の診療ネットワーク事業」会議

### (4) 母子保健関係

市町村等母子保健体制の充実に向けて、講義や事例検討への支援、情報交換等を行った。

開催日	実施機関
平成 27 年 11 月 2 日	児童発達支援センター つつじが崎学園 平成 27 年度保育所等訪問支援研修会（事例発表、講演）
平成 28 年 2 月 1 日	中北保健福祉事務所峡北支所 平成 27 年度母子支援力向上研修会（講義・事例検討）

### (5) 圏域・市町村関係

圏域やモデル市町村開催の会議に出席した。

開催日	会議名
平成 27 年 4 月 20 日	第 1 回南アルプス市思春期就労準備支援事業実行委員会
平成 27 年 5 月 22 日	第 2 回南アルプス市思春期就労準備支援事業実行委員会
平成 27 年 6 月 19 日	第 1 回南アルプス市思春期就労準備支援事業検討会議
平成 27 年 7 月 9 日	第 1 回笛吹市発達障害支援関係機関連絡会議
平成 27 年 7 月 28 日	第 3 回南アルプス市思春期就労準備支援事業実行委員会
平成 27 年 9 月 3 日	第 2 回南アルプス市途切れのない支援連携会議
平成 27 年 9 月 15 日	第 2 回笛吹市発達障害支援関係機関連絡会議
平成 27 年 11 月 17 日	第 3 回南アルプス市途切れのない支援連携会議
平成 27 年 12 月 1 日	第 4 回南アルプス市思春期就労準備支援事業実行委員会
平成 28 年 2 月 18 日	第 4 回南アルプス市途切れのない支援連携会議
平成 28 年 2 月 26 日	第 3 回笛吹市発達障害支援関係機関連絡会議
平成 28 年 3 月 1 日	第 5 回南アルプス市思春期就労準備支援事業実行委員会
平成 28 年 3 月 1 日	第 2 回南アルプス市思春期就労準備支援事業検討会議
平成 28 年 3 月 4 日	峡東地域発達障害者支援検討会議

## 研修・普及

### 1 人材育成

#### 1) 子どもの心の診療関係者の研修事業

##### (1) 子どもの心の総合支援研修

①小児科医や精神科医等専門職を対象

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 8 月 26 日	親支援について	NPO 法人えじそんクラブ 高山 恵子	106

②子どもの心の診療に係わる専門職及び一般県民を対象

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 11 月 5 日	個性を生かす子育て	信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部 部長 本田 秀夫	307

##### (2) 子どもの心の診療関連職種専門研修

\*子どもの心の診療に関わる専門職対象

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 6 月 19 日	パーソナリティ障害 概論	帝京大学 林 直樹	113
平成 27 年 11 月 11 日	発達障害の診断と評価	都立小児総合医療センター 市川 宏伸	93

##### (3) 先進地研修及び専門研修の受講

学習障害児支援を行っている事業所において研修を実施した [参加者数：6名]。

特定非営利活動法人フトゥーロ・LD 発達相談センターかながわ (神奈川県横浜市)

公式 幼児教室・学習塾 Leaf (神奈川県横浜市)

##### (4) 児童思春期精神医学専門研修

\*小児科医、精神科医、関係専門職が対象。

###### ①児童精神医学セミナー

週 1 回こころの発達総合支援センター内で開催した。

内容は所長による精神医学の講義、および症例検討会。症例検討会のうち数回は外部からスーパーバイザーを招いて行った。

## ②臨床研修受け入れ

医学部学生、臨床研修医並びに小児科医の研修の受け入れ。

山梨大学医学部臨床研修医：1名	1回/年
市立甲府病院臨床研修医：1名	1回/年
県立中央病院臨床研修医：1名	1回/年
山梨大学医学部臨床研修医：1名	3回/年
山梨大学医学部小児科：1名	2回/月
一宮温泉病院小児科：1名	2回/月
あけぼの医療福祉センター小児科：1名	2回/月

## ③思春期入院症例カンファレンス

年6回、県立北病院の児童思春期病棟カンファレンスへ医師を派遣した。

(24 ページ (3) 医療関係と重複あり)

## (5) 家族療法講習会

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 9 月 11 日	家族レジリアンスを強める	中村心理療法研究室 所長 中村 伸一	56

## 2) 発達障害研修事業

\* 発達障害児者の支援に関わる専門職を対象

### (1) 発達障害基礎研修

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 5 月 18 日・ 6 月 15 日 (1 コース 2 回)	健康増進課主催研修へ協力 母子保健従事者研修会「発 達の気になる子の早期把握 早期支援に関する基礎研 修」	所長及び幼児スタッ フ	59
平成 27 年 11 月 16 日・ 11 月 30 日 (2 回)	児童家庭課主催研修へ協力 発達支援特別研修会「発達 が気になる子への関わり方 ～発達障害の基本的理解と 支援のヒント～」	幼児スタッフ	67

## (2) 発達障害専門研修

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 8 月 19 日	自閉症スペクトラムの発達段階に基づく支援内容について～幼児期から小学校低学年を中心に～	横浜市総合リハビリテーションセンター・児童発達支援事業所ぴーす新横浜 園長 日戸 由刈	162

## (3) 発達障害就労支援研修

日時	内容	講師	参加者数
平成 27 年 10 月 19 日	就労について	山梨支部山梨障害者就業センター所長 中村 雅子	82

## 3) 講師派遣

関係機関からの要請に応じて、当センターのスタッフを講師として派遣した。

派遣先	箇所数	延べ参加人数
教育関係	4 箇所	82
保健関係	1 箇所	30
福祉機関	1 箇所	5
医療機関	1 箇所	43
その他	3 箇所	127
合計	10 箇所	287

## 4) 視察研修受け入れ

研修機関	内容	対応日	人数
埼玉県福祉部福祉政策課	当センターの事業概要及び運営状況、施設見学、意見交換	平成 27 年 6 月 4 日	5
宮崎市福祉部障がい福祉課	当センターの事業概要及び運営状況、間接支援の実際、意見交換	平成 27 年 9 月 7 日	1
福岡市保健福祉局障がい者部障がい者在宅支援課	当センターの事業概要及び運営状況、医療と福祉の連携効果の実際、意見交換	平成 27 年 12 月 17 日	1

## 2 発達障害者支援開発モデル事業

### 事業名：「思春期発達障害事例に対する総合的支援プログラム開発事業」

厚生労働省の委託を受け、平成20年度から思春期事例に対する支援プログラム開発を行っている。これまでは思春期の課題である孤立や不登校の2次障害への対応に対し、「発達障害者サポーター養成・派遣」に取り組んできた。発達障害者支援の課題を考えたときに、成人期に転職を繰り返していたり、就労に結びついていない人が多く、就労に向けての予防的支援の不足が考えられた。そこで、平成24年度からは、これまでの事業を更に展開させたかたちで、より早期の段階である思春期から取り組む「思春期将来展望形成プログラム」を開始した。

#### 1) 思春期将来展望形成プログラム

- (1) 目的： 就労の具体的なイメージを理解するためのプログラム開発と就労につながるネットワーク形成を行い、思春期の発達障害事例に対する総合的支援プログラム開発を行い、関係機関、地域への普及、啓発を図る。
- (2) 対象： こころの発達総合支援センター等で相談している発達障害のある思春期ケースで、当事業の必要性が認められた者14名
- (3) 内容：

#### ①本人向け職業講座・職場体験、ふりかえり、保護者向け学習会、支援者向け学習会

日時・場所	内容・講師	参加者人数
平成27年7月31日 山梨県立図書館	講義①「きちんと働くために今できること」 講師：山梨障害者職業センター 藤本 真美 講義②「働くために必要なこと」 講師：わかば支援学校 荒川 昌浩	11名
	講義③「職業調べ」 講師：こころの発達総合支援センター 主任 矢崎 麻由 技師 依田 匡平	11名
	講義④「職業体験オリエンテーション」 講師：こころの発達総合支援センター 荻野 厚子	11名
平成27年7月31日 山梨県立図書館	保護者学習会 「働くことを考える ～求められることと、できること～」 講師：株式会社カルク ソリューション事業部 田崎 輝美	31名

平成 28 年 1 月 14 日 福祉プラザ	支援者学習会 内容：「思春期からはじめる就労支援 ～ 3 事例の取り組みから～」 事例提供者 ① 南アルプス市発達障害者の思春期就労準備 支援事業「就労支援ワーク」 （社）さかき会 鴨作 光昭 ② 八ヶ岳名水会「ブリッジスクール」 （社）八ヶ岳名水会 小泉 晃彦 ③ 都留文科大学地域交流研究センター 「キャリアデザインワーク」 都留文科大学非常勤講師 原 まゆみ	21名
平成 27 年 8 月 6 日 各自体験場所	職場体験	13名
平成 27 年 8 月 7 日 各自体験場所	職場体験	13名
平成 27 年 8 月 17 日 山梨県立図書館	ふりかえり 内容：「体験発表」「個別ふりかえり」	8名

## ②支援者用テキストの作成

タイトル：中等教育段階におけるキャリア教育の試み「就労支援ワーク」テキスト

### 2) 発達障害者サポーター養成・派遣

- (1) 目的：学校不適應などにより社会参加できていない発達障害のある人に対し、「発達障害者サポーター」を派遣し、社会参加・就労準備の機会を作る。
- (2) サポーター対象者：サポーターは山梨県内の教育、福祉、心理などを専攻している短大、大学、大学院生、または社会人で障害福祉に関して一定レベルの知識・理解を有している者
- (3) サポーター派遣対象者：こころの発達総合支援センターの相談者で、相談相手を必要としている思春期から青年期ケースで当事業の必要性が認められた者
- (4) 内容：サポーター養成、サポーター派遣

#### < 実績 >

##### ① サポーター養成

●人数： 県内の教育、福祉などを専攻している大学生等

新規： 4名（大学生/男性1、女性3）

継続： 16名（大学生15、社会人1/男性2、女性14）

## ●研修

日時	内容	講師	参加人数
平成 27 年 9 月 28 日 14 時半～ 16 時 福祉プラザ	発達障害者サポーター事例の検討 発表者：発達障害者サポーター	スーパーヴァイザー 心理臨床オフィス・ ルーエ 喜多川 康子	3 名

## ●スーパーヴィジョン

- ・サポーターから報告された内容に対して、事業担当が必要に応じアドバイスを行った。
- ・当センターの相談担当者とサポーターが直接会い、アドバイスを行う仕組みを作った。
- ・養成研修にてサポーターに活動経過を発表してもらい、スーパーヴィジョンを受ける機会を作った。

## ●大学との連携

- ・大学の学生向け教育ボランティアガイダンスへ参加し、当事業の案内を行った。
- ・サポーター活動が「社会参加実習」の単位として認定された。

## ② サポーター派遣

- 人 数：当センターの学齢期後期から青年期ケース 5 名  
(男性 1 名、女性 4 名/青年期)

派遣回数：4 4 回

派遣（活動）内容：

- ・「学習支援」：宿題やレポート作成の援助など
- ・「余暇支援」：映画を観に行くなど
- ・「相談支援」：対人関係や進路の悩みを聴き一緒に考える
- ・「生活支援」：公共交通機関の利用の仕方を学ぶ
- ・「学内支援」：授業の出席状況や履修登録などの確認

## 3) 発達障害者支援コンサルタント養成・派遣事業

平成 20 年度に、「発達障害者支援コンサルタント」を 32 名養成した。養成した発達障害者支援コンサルタントの職種は、地域療育コーディネーターや特別支援教育コーディネーター、臨床心理士、作業療法士、保健師など、多岐にわたっている。

平成 21 年度からは、地域療育等支援コーディネーターを中心にコンサルタントチームを構成し、複数体制で保育園・幼稚園に出向き、発達障害者支援に関する専門的

な指導、助言を行った。また、発達障害者支援コーディネーターとしての役割と、関係者に対して指導できる指導者としての役割を担う「発達障害者支援コンサルタント」のスキルアップを図るための研修を行った。

#### (1) コンサルタント養成

##### ● 発達支援研修

ライフステージ特性に応じた発達障害者支援を先駆的に行っている学識経験者から先進事例などを学ぶことにより、発達障害者支援コンサルタントとしての指導者の役割を担う上で必要な最新知識を得ることを目的とし、こころの発達総合支援センターの研修と合同で行った。

#### (2) コンサルタント派遣

保育所、幼稚園などからの要請に応じ、コンサルタントチームが派遣要請のあった機関に出向き、指導・助言した。要請機関への訪問前には、コンサルタントチームでケースのアセスメント、見立て、方針を策定する事前検討会議を行った。

日時	コンサルタント派遣要請機関
平成 28 年 2 月 19 日	学校法人河西学園 甲府みなみ幼稚園

### 3 調査研究

1) 平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業「発達障害とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価」(H25-身体・知的-一般-008)において、山梨市を対象として分担研究を行い、報告した。

#### 2) その他研究発表

- ・こどものこころの診療における小児科医との医療連携（第一報）  
：第 18 回山梨県公衆衛生研究発表会
- ・こどものこころの診療における小児科医との医療連携（第一報）  
：第 13 回山梨県福祉専門職研究協会研究発表会

### 4 広報・普及

#### 1) パンフレット等印刷物の発行

こころの発達総合支援センターのパンフレット作成し、各関係機関や研修等の機会に配布している。また、こころの発達総合支援センターのホームページに利用に関する案内や一般向けの研修案内、平成 26 年度業務概要等を掲載した。

## 2) 広報視聴覚教材の提供・貸出

### (1) 貸出図書

平成 23 年 4 月より、図書貸し出しを行っている。

対象は、主に保護者・関係機関職員・学生などである。

全蔵書数 461 冊であり、年度内貸し出し数は延べ 52 冊である。

#### 貸出図書 全蔵書数

1 分類	概論・事典・法律	112
2 分類	支援・指導・教育	169
3 分類	就労	7
4 分類	心理・アセスメント・診断	54
5 分類	雑誌 4 種	0
6 分類	その他	119
合計		461

(冊)

平成 27 年度新規納入図書数・・・ 12 冊

平成 27 年度貸し出し数・・・・・・ 52 冊

#### 月別貸出数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
2	11	4	3	3	8	4	3	4	5	5	0	52

(冊)

### (2) 視聴覚教材

発達障害関連 DVD・・・・・・ 13 本